



支援継続のために

いつもRASA-Japanの活動をご理解・ご支援いただき、お陰様で活動が継続できます。

昨年12月 食品配付対象児童に例年通りクリスマスプレゼント予算を設け、「パスタセット」を配付しました。フィリピンでのクリスマスは、10月頃から準備を始める大イベントで、国民は教会に集って祈り、家族で共に食卓を囲み祝います。大きなプレゼントに児童から喜びと感謝の報告が届きました。



昨年12月の配付の様子

しかし、1月に入るとお米がまた値上りしました。1kgあたり約10%値上り、1回の配付(10日分)で140人分 700kg配付しますので、約9,000円の値上りとなります。配付量を減らさないために、同じ金額で購入できる低価格の種類に変更をしました。物価上昇が続く、値上りの度に量を減らさないことを第一に対策をしていますが、物価上昇が続いており、配付食品数を減らさなければならない状況です。



ほとんどのお米が10%以上の値上げ

出来るだけ多数の児童を対象とするよう、1年を2回に分け、140人ずつ選定し、延べ280人を支援しています。2月に支援対象児童の入替を行いました。今年は約75%の児童が入れ替わりました

(去年は約90%)。1月の配付が最後となった児童が多くいますが、それ以上に支援を待つ児童が多くいます。児童や保護者からの支援に対する感謝のメッセージには、どれにも支援の継続とより多くの児童の支援を望む思いが書かれています。

円安で日本円の送金額が増える一方、現地では責任者がいかに多く配付できるか、インフレが進む中、苦心努力しています。今後ともご理解・ご支援くださいますようお願いいたします。



配付を待つ長い行列



食品は大きな支援

昨年12月23～26日に学校建設会社シグニー代表のルーシー氏が家族と旅行で来日されましたので、RASAに宿泊していただき、名古屋をご案内しました。

また、2月22日に親族と旅行で来日されていたブラカン州教育省長官のレネ氏と、面談をしました。「日本は綺麗！」と何度もおっしゃっていました。これからも繋がりを大切に活動してまいります。



ルーシー一家と名古屋城にて



レネ氏とホテルにて

フィリピンの貧困について、ご理解を！ご支援をお願いします！

2011年頃は、人口の1%の富裕層が国の富の50%を牛耳っていて、富の偏在、格差は大きかったですが、格差は更に増大。中間層が増え豊かになってきていますが、最下層は発展から取り残され、発展の犠牲になっているといわれています。1人当たりのGNI(国民所得)を見ると、人口の多くを占める貧困層の富が少なく、少数を占める超富裕層が富の大半を牛耳っており、全所得を人口で割って出すため、数字としては貧しい人も豊かになっていることになります。中間層の占める富の割合が少しずつ増えてきてはいます。しかし、人口の半数を超える貧困層のGNIは、実態とかけ離れています。

○2020年GDP(国内総生産)

3,615億ドル(日本の6.9%)とわが国の豊かさと比しても、低いことが分かります。

○2019年1人当たりのGNI

3,834ドル(日本の9%) 1ドル≒109円で41.8万円
貧困層では、1日350ペソ、月に20日間働けたとして、1年で84,000ペソ(当時1ペソ≒2.2円)で18.48万円。1年を20万円以下の収入で生活しています。

○雇用制度

労働契約は期間限定が多く、終了すると再雇用が保証されていません。契約が資本家の雇用企業の判断によって決まり、再雇用で更新されなければ失業です。**労働者は不安定な雇用環境に置かれ、生活の安定が望めないのです。経営者の**

権限が強く、労働者側に弱い制度です。最低賃金法があり、毎年額が上がっています。都市部や大企業では適用されていますが、地方や田舎では、土地を持たない農民や労働者がほとんどです。安い賃金でも仕事に就けたらいい方で、賃金水準はずっと上がらず、貧しさに堪えての生活になっているようです。植民地時代から続く大地主や華僑が今も資本家として経済を牛耳っているのです。

○フィリピンの労働事情

平均年齢25歳、人口増加、労働人口4,383万人
人口の10%の1,100万人が海外で働き、本国に送金する世界1の労働輸出国。

賃金の数倍の外国で安定した雇用が見込めると、国も制度として奨励し、輸入の多いこの国で外貨獲得によって、経済のバランスが取れているようです。

○食品配付の受給者の職業別収入調査

RASAの現地支所責任者に食品配付の受給者に、1日の給料を調べてもらいました。恒常的に仕事があるわけではありません。

建設作業・家事労働・運転手 300ペソ≒780円
 大工職人 350ペソ≒900円
 移動販売 250ペソ≒650円

両親のどちらか1人だけが働いている世帯が多い。1人親世帯も多く、両親とも無職の家庭もかなり多くあります。

RASAの今まで継続してきた食支援の経過をご覧ください

2006年	セブ島で学校建設地の貧窮児童へ給食開始。 RASAが支援する現地MLGDF法人へ支援金を送付。
2011年	RASAがラグナ州カブヤオ市サウスビル I 小学校校舎増築建設中に、PTAから極貧家庭の栄養失調児15人に給食支援を懇願され、予算も計画もないまま民家でスタート。
2012年	正式な支援Feeding Program として、予算約70万円で給食支援開始。次年度のため助成金応募して資金獲得。
2013年	愛知万博MORIKORO基金助成金応募で、80.3万円を得て、児童25人に1年間給食支援実施。現地責任者を入れて3人で調理配給費含む。
2014年	RASAが資金調達し、50人に支援児童を増やす。給食場所の移転を要求され移転先の改装費も支払ったが、開始前に責任者のずさんな会計処理や自宅増築への不正流用が判明。支援の継続を第一と考え、給食場所を学校に移すと決定し、資金がいるため、銀行支店長へ支援のお願いに行ったり、新学校長に3度実施の要望書を送る。



2013年 給食風景

2015年	現地に出向き、アイダ校長がRASA全額支援条件で給食活動を認可し、全面協力の契約を得る。サウスビル I 小学校で場所提供、運営管理をコーディネーター2人、給食作りを調理人とヘルパー3人が担当し、全責任を学校が持ってくれる。給食室や備品や施設新設。 支援児童50人(全学年対象) 、毎月身長、体重を測定して、BMI(体位)の管理、出席日数、会計報告、児童の写真等の通知を受ける。体位向上の成果が大きく出た。衛生教育(手洗い、歯磨、爪切)、祈り、食事マナーの指導も実施。「手を貸す運動Ⅱ」に資金支援を依頼し、200万円を支援していただいた。以後も大きな支援を継続していただいている。
2016年	支援児童を2倍の100人、対象を5年生6年生各50人とし、当校の途中休学や落第、卒業できない児童が多いため、5年生の休学や落第をなくして6年生に進級し、全員卒業が目的。毎食ミルクを追加。ラグナ州からFeeding Programの成果が認められ、表彰を受ける。第1回study Tour 給食や日本語授業のボランティア活動。学生8人を派遣。
2017年	RASAの出資で給食室改装設備補充。外に手洗場新設、児童の給食にビタミン剤を加える。年間費用 約267万円。第2回目Study Tour 学生ボランティア13人派遣。ラグナ州から給食支援活動でRASAが表彰を受ける。
2018年	第3回Study Tour 前年と同等の支援。
2019年	第4回Study Tour 歯科医から「英語版歯磨き指導シート」をRASAへ寄付していただいた。学校全学年全クラスに、指導用として贈呈。カブヤオ市からRASAへ感謝状をいただく。
2020年	RASAが学校訪問中に、COVID19感染急拡大で突然学校閉鎖。給食不可。Study Tourも中止。3月の予算残額で50人に米5Kgを配布。感染がフィリピン全土拡大、医療制度不良で、感染が長期に亘る。厳しい長期の外出禁止令で、経済は疲弊、失業無収入者が多数。サウスビル I 小学校は約18か月登校禁止。政府は困窮家庭に月4,000ペソ配布したと聞くが誰も受けていない。社会福祉制度は極少で進展は遅れている。彼らは政府をあてにしていないと言う。
2021年	6月学校年度終了。コロナ期間中に国の教育制度が改革され、学年度が、9月開始翌年6月迄が1年度と変更された。対面授業不可で、IT器機使用教育で格差が拡大する。
2022年	8月～2023年7月初めRASAは学校長と支援方法と支援額を合意して契約。支援人数100人から140人に支援増。支援日数は、登校日数209日間、1日1人40ペソ(約100円) 支援事業に必要な物資調達、配付、管理、送金の受取と経理の責任を持つ RASAの現地支所を設置 、日本と現地の日常的な綿密な指示や報告が可能。
2023年	7月～8月最適な食品選び組み合わせを指示。現地通貨ペソでの受取を守って、円の送金額が増え続ける。7～8月は学年終了で休校だが、コロナ後経済回復も、貧困層は恩恵受けず、食費すら困難な暮らしと知り、 夏休みも支援を決定 。7月に現地視察訪問し実情を見て要支援の継続確認。次年度の食品配付契約をする。
2023年度	9月～2024年6月 現地の急激な物価高騰で10月から支援物資の配付量が漸減する。



2015年 給食室の準備



給食を羨み覗く
支援を受けられない児童たち



Study Tour ボランティア
日本語授業風景



Study Tour ボランティア
給食調理風景



2021年 食品配付



2022年 児童宅訪問



「初心忘るべからず： 小学校教室建設」

深谷 輝彦

椋山女学園大学の学生(以下椋大生)がRASA-Japanの学校建設事業に初めて参加したのは、今から13年前の2011年でした。学部長であった私に学内の就職アドバイザーであった山田三郎さんが声をかけてくださり、椋大生の募集を開始した次第です。

フィリピンへ出発する前に、私は学長宛に「このボランティア活動では、ホームステイしながら、小学校の教室建設の補助作業をすると同時に、現地の子ども達とふれあう機会も予定されています。私自身も、8月下旬にフィリピンのボランティアの現場に赴き、その活動の様子を視察し、関係者からお話を伺うつもりです。」という事前報告をしました。椋山からの参加者数は、2011年3名、2012年18名、2013年24名と年々増加し、当時のボランティア意識の高まりが蘇ります。

2012年のある椋大生は、「みんなで汗をたくさん流しながら働いた作業場、昼食を届けてくれるホストファミリーの姿、私たちのことが気になって授業に集中できないで騒いでいる子供たち、フィリピンの人たちの心を和ませてくれる笑顔。私はフィリピンで、自分がとてもキラキラしているなど感じました。フィリピンでの自分を思い返してみると、いつも笑っていたな、心が満たされていたなと思います。」と、ボランティアの喜びと心の高まりを綴っています。また、「現地では、全くお金を使わなかったという学生たちは、「シンプルな遊びをしているだけなのに、人との温かい交流があるだけでとても楽しかった。『お金では買えない幸せがある』という言葉の意味を初めて知ることができた」と話してくれました。」という貴重な記録も残っています。

参加学生の声を振り返ってみると、校舎建設の補助に加えて、まわりの小学生やホストファミリーから、心の栄養となる刺激をたくさん得て帰国している様子が覗えます。そして椋大生にそうした体験の場を提供してくださった藤井夫妻をはじめRASA関係の皆様のご支援に心よりお礼を申し上げずにはいられません。



フェリシアーノ・チアゴさん

私はフェリシアーノ・チアゴ、22歳のブラジル人です。私は、本を読むことやゲームをすることが好きです。家族は父、母、兄、姉、弟と私の6人ですが、現在同じ住所に住んでいるのは4人です。

RASAさんが行っている人を助けること、または人のことを気遣っている働きは稀で、貴重なものです。それは私たちが賞賛するものであり、他の多くのものよりも世界の美しさをよく示しています。

私たちはできる限りこの運動をサポートし、フィリピンの家族に、愛情を込めてもたらされている美しい喜びをさらに増やしたいと考えています。これからも手伝えることができるように、私たち家族は頑張ります。



片岡由美子さん

カトリック聖マリア名古屋教会ミサの参加者は、ブラジルから日本に出稼ぎに来日している方が多くて、フィリピンの恵まれない、貧困から抜け出せない子供達、社会的に弱くて我慢して生活している人の苦しみをよく理解し、分かち合えるので、ほんの少しだけでもRASA-Japanを通して援助できて光栄です。

先月RASA-Japanの活動で援助を受けている子供達の笑顔を見て心が癒されました。。。 「来年ももっとたくさん寄附できるように頑張ろう」という気持ちです。

「東海地域NGO活動助成金」受諾のご報告

1月に「2024年度 食品配付支援」の資金不足のため、「東海NGO活動助成金」の応募申請書類を提出しました。2月に1次審査を合格し、3月10日名古屋YMCA 名古屋NGOセンターにおいて最終審査

があり、活動発表後の質疑応答で支援の必要性を審査員の皆様にお伝えしました。

審査で採択され、20万円の助成金を受諾できました。今後の活動に活かしてまいります。

キャッシュレスで支援ができるようになりました！

いつもRASA-Japanの活動を支えていただき、心から厚く御礼申し上げます。

この度、会員の申込・継続や寄付が、クレジットカード等で支払いが可能となりました。

今までは銀行振込と現金での対応でしたが、クレジットカード決済の導入により、時間や場所を問わず、3ステップで手続きが簡単・迅速になりました。

クレジットカード(VISA・Master・AMEX・JCB・Diners・DISCOVER)やApple Pay・Google Payでのお支払いが可能で、決済記録が残るため、ご自分の会費や寄付の履歴が確認いただけます。

また、会費(正会員・賛助会員)につきましては、1度クレジットカード決済で申し込をしていただきますと、翌年以降継続して毎年自動的に決済させていただきます。2回目以降の継続決済は、申込・初回決済日の365日後に行われますので、複数回の申込は不要となります。

寄付は、都度寄付となっております。

いただきました情報は個人情報に関する法令を遵守の上、厳正に管理し、領収書発行及び活動案内の目的以外で使用することはありません。

手続き方法やご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。ぜひご検討いただき、ご利用いただけますと幸いです。

RASA-Japan ホームページ

クレジット決済スタート画面

①申込内容を入力

②申込者情報を入力

③決済情報を入力

クレジットカードでも会員の申込・寄付ができます

ここをクリック

または、QRコードから

ここをクリック

RASA-Japanは、皆様の支援金で運営されております。

しかし、近年資金不足が大きな問題です。

フィリピンの経済成長の恩恵は富裕層に傾いており、貧困層は困窮状態にあるため、支援の継続は必須です。多くの子どもたちが支援を待っています。

皆様のご支援は、貧困児童の教育環境の向上と栄養改善となり、就学率向上に繋がっていきます。

支援継続のために、今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。

受給児童からのメッセージが届きました

食品配付受給児童から、メッセージが届きました。どの児童も支援の継続とさらに多くの児童への支援を願っています。今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。

こんにちは。RASAの恩恵を受ける一人として私を選んでいただき、心から感謝しています。これは私だけでなく、私の家族にとって、また小学校にとっても、継続的に私たちを支えてくれている本当に有り難い支援です。RASAと支援者の皆様、そして私たちの学校の皆様、神の祝福がありますように！さらに多くの人々に支援の手を差し伸べていただけることを願っています。

Gread 6 Guerzon Jade C. 9人家族

食品配付を継続していただいて、ありがとうございます。また、私を受給者の1人を選んでくださり、感謝しています。私たちの家族にとって大きな支援になっています。

Gread 4 Monteverde Cristelle Ann 4人家族

食品をいただけることに、私たちは心から感謝しています。私たちにとって大きな援助だからです。引き続き貧しい家族を助けていただけることを願っています。どうもありがとうございます！

Gread 4 Torrefiel Secret E. 5人家族



食品を受け取りに来た児童たちと現地スタッフ デニス氏

今後の活動予定

6月下旬 定時総会開催予定

6月23日 フェスタジュニナ参加予定(豊田スタジアム)

会員が減少傾向です！活動を支援いただける方、法人・団体を募集しています！

資料をお送りいたしますので、RASA-Japan事務局までご連絡ください。

※「遺贈によるご寄付」、「相続財産のご寄付」は、相続税が免除されます。お志のある方はご連絡ください。

※郵便局・ゆうちょ銀行では現金での払込に加算料金が必要です。詳しくは窓口でお問い合わせください。

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています



認定 特定非営利活動法人
RASA-Japan
理事長 藤井 典夫

〒468-0014 愛知県名古屋市天白区中平2-2627
TEL/FAX 052-803-1649
E-mail info@rasa-japan.com

郵便振替：口座番号 00890-4-31185
受取人 特定非営利活動法人RASA-Japan
三菱UFJ銀行：平針支店 普通 0037025
トクテイヒエイリカソドウハウジンラサジャパン

クレジット決済はこちら



ホームページ
<http://rasa-japan.com>



YouTube JP



@rasa_japan



@rasa.japan



@rasa_japan

